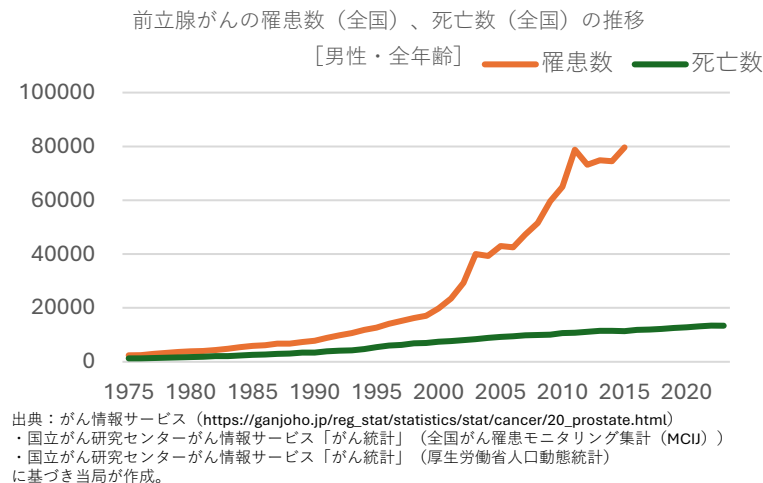


- ✓ サニタリーボックスは、従来は、女性用トイレに設置されることが一般的でしたが、最近では、男性用トイレでも見かけることも。
- ✓ **前立腺がんの治療後の症状、また加齢に伴い、尿漏れパッドや成人用おむつを使用する男性が増加傾向**という背景。



〈行政相談委員〉

- **前立腺がん等の治療を受けた方や、高齢者**の中には、尿漏れパッドやおむつの使用が必要な方がいるが、**外出先の男性用トイレには、サニタリーボックス等の捨てる場所がないことが多い**。持ち帰っているが、便器内への放置、処理に困るために外出を控えるケースもある。

〈行政相談〉

- 尿漏れをするようになり、尿漏れパットを使用するようになったが、**外出時、男性用トイレには捨てる場所がないため、使用済の尿漏れパッドを持ち帰っている**、男性用トイレへのサニタリーボックスの設置を推進してほしい。

⇒ 今回、男性用トイレのサニタリーボックスを設置した幾つかの施設（①地方公共団体の庁舎、イベントホール、展示施設、体育施設など、②量販店）において、設置場所、大きさ・素材・形状、費用がどうなっているか情報収集を行った。



■ 今後、管内の関係機関や地方公共団体などが設置を考える際の参考となるよう、順次、提供予定

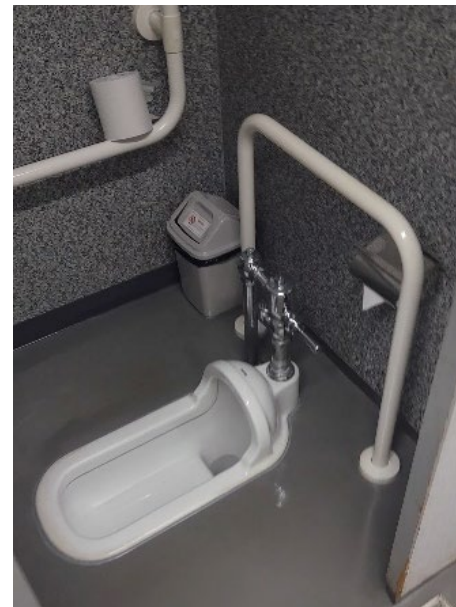
- 総務本省（行政評価局）や他の管区局も情報収集を実施、一般社団法人日本トイレ協会が作成した男性用トイレにサニタリーボックスを設置する際の留意点の検討に当たって協力

〈設置場所〉

- 施設の1階など**利用が見込まれる個室トイレに設置**するケースもあれば、各階の**全個室トイレに設置**するケースも（①地方公共団体の庁舎、イベントホール、展示施設、体育施設など）
- 来店者、従業員が利用する個室トイレに順次設置（②量販店）

今回協力いただいた施設管理者によれば、年々、利用されるようになってきている、一定の需要はある、尿漏れパッドや成人用おむつ以外のごみが捨てられることはほとんどない、とのこと。

◆ トイレ個室への設置の例



情報収集の結果②

〈大きさ、素材、形状〉

- 紙おむつを捨てられる大きさのものを設置しているケース（①地方公共団体の庁舎、イベントホール、展示施設、体育施設など、②量販店）のほか、個室トイレの広さと利用の便を考慮し、やむなく女性用の個室トイレと同じサイズを設置するケースも（①）
- プラスチック製のものもあるが、耐久性や防臭を考慮し、金属製（ステンレス等）のものを設置しているケース、足踏みペダルで蓋を開閉できるボックスも一部みられた（①、②）

〈費用〉

- ボックスは市販品で概ね1,500円以内。回収、ごみ袋の取替などは既往の清掃委託や従業員が行う清掃業務の中で対応しており、追加費用は生じていない（①、②）

<金属製・足踏みペダル付き>



20.5cm×27cm×29cm（5リットル）
@約1,400円（蓋のシール代込み）



18cm×22cm×27cm（3リットル）
@約1,000円

<プラスチック製>



20cm×34.6cm×47.2cm
（16.5リットル） @1,230円（税込）



22.4cm×14.3cm×19.5cm
@1,210円（税込）



14cm×14cm×19.5cm
@1,210円（税込）※男性トイレ用